慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	川又
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1967
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.60, No.2 (1967. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19670201-0122

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

今から百年前の今月、すなわち一八六七年二月に、価格論や利子論の著作で名高いアメリカの先駆的経済学者アーヴィング・フィッシャーが生れている。いうまでもなく学者の生涯において学説史上最も価値ある時は、その人の主著ないしは主論文が公にされた時であるから、フィッシャー教授の生誕百年に何か特別の意義があるというわけではない。単に以下の話の序とでも解していただきたい。

現代のアメリカの経済理論は、数理実証性を一大特色としている。これはある意味でフィッシャーの処女作『価値及び価格理論の数学的研究』の流れをくむものである。それ以後3/4世紀、経済学の進歩のあとはまことに目をみはるものがある。

だがここで想い出されるのは『厚生経済学』の著者ピグーの名高い教授就任講演の中の一節である。ピグーはいう、「エッジワースの『数学的精神科学』とか、フィッシャーの『利子論』に興味を持たれて経済学を始められるのも結構なことですが、……ロンドンの貧民街を通り過ぎて心を動かされ、その同胞を助けるために少しでも努力したいという気持から経済学を学ばれることをはるかに喜ばしく思うのです」と。

いったい現在の経済理論家のうち、ピグーが最も好むといった動機で研究を始めたものは何人あろうか。けっして多くはあるまい。この傾向はわが国の場合にとりわけ著しいように思われる。経済学者のこの「社会的情勢」の貧困はうれうべきことなのか。あるいはそれを必要としない基礎分野の不斉一的発達もすなおに進歩と考えるべきなのか。

（川又）

昭和四十二年二月一日発行

© 三田学会雑誌 第六十巻 第二号

定価 二〇〇円（送料一二円）

編集兼発行人 東京都港区芝三田二丁目二番地 慶應義塾経済学会 代表者 遊部久蔵 電話三田（453）二一一一 振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地 図書印刷株式会社 木山康夫

半ヵ年予約購読料（送料共） 一二〇〇円
一ヵ年 〃 〃 二四〇〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発売所 東京都高輪局区内三田綱町一番地 慶應通信 振替口座番号 東京一五五四九七